

## 農林水産大臣賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

解体処理施設を核とするビジネスモデルの構築を目指し、狩猟者・解体処理施設における衛生管理技術の向上、ジビエの普及啓発・販路開拓、消費拡大等の取組みにより、ジビエの認知度向上を実現。

### いなばのジビエ推進協議会

（会長：長尾 裕昭）

主な取組

鳥取県鳥取市

平成24年にシカの捕獲増を背景に、狩猟者、解体処理業者、飲食店、商工会、行政（1市4町）等が連携し、地域資源であるシカ等をジビエ利用し、解体処理施設を核とする協議会を発足。

本協議会は、解体処理施設を核とするビジネスモデルの構築を図り、不衛生というジビエのイメージを払拭するため、作成段階から関与した「鳥取県野生鳥獣衛生管理ガイドライン」を基に、県内の処理加工施設に対し、同ガイドラインの普及・啓発に努めた。また、解体処理施設に従事する者のみならず、学生や狩猟者等を含めた「衛生管理技術の向上」の研修等を実施するほか、食品衛生部局と連携し、県内7施設を対象に年1回の培地検査により細菌数を見える化し、衛生管理状況を確認。

販路開拓として、地元スーパーや飲食店、道の駅、首都圏・関西圏のレストラン等への販売に加え、学校給食での利用促進や各種イベントでのPRによりこれまで関心がない消費者に向け広くアピールすることでジビエの認知度向上を実現。

（鳥取東部地区ジビエ（鹿）利用率 平成23年度 7%→平成28年度 26%）